

大垣精工、熱処理の新工場

ハードディスク部品の生産増強



新設するアニール工場の
完成予想図

精密金型、精密プレス製品製造の大垣精工（大垣市浅西、上田勝弘会長）は、ハードディスク機能部品の生産能力増強に向けて、11月に熱処理（アニール）工場を同市浅草に新設する。同部品を生産する長崎工場（長崎県東彼杵町）も一部拡張する。さらに電気自動車（EV）用のリレー部品の生産増強に向け、加圧能力300トンのプレス機2台を西工場（同市浅西）に11月までに導入する。総投資額は約6億円。

（鈴木隆宏）

新型コロナウイルスの感染拡大によるテレワークの普及に伴い、データセンターやパソコンで使われるハードディスクの需要が急増。EVは環境負荷低減の流れから普及が急速に進んでおり、成長分野に積極投資する。

新工場は既存のアニールを行っているセイコーアニ

ール工場の隣接地1650平方メートルを賃借して建設。鉄骨2階建て、延べ床面積は1188平方メートル。将来は賃借した土地も取得する。炉は1基導入する。

アニールは部品の硬度を一定にするために必要な工程。同社はセイコーアニールと長崎工場で炉を各1基稼働している。増産の課題

となる工程で、リスク分散のためにも必要と工場の新設を決めた。上田会長は「本年度はグループ全体で売り上げ20%増を見込める」と意気込んでいる。